

鶴見大文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.24

ドキュメンテーション



ノート PC の返却に集まった 11 期生の皆さん

ドキュメンテーション学科 11 期生の卒業を祝して！

11 期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。鶴見大学で過ごした時間は、如何でしたか。学業に興味に充実した学生生活を過ごしたことと思います。

さて、皆さんが在学された 4 年間で、ドキュメンテーション学科は社会貢献活動や国際交流活動が更に前進しました。

社会貢献活動に関しては、特別実習Ⅰの授業として、横浜で 3 年に一度行われる現代アートの国際展である「ヨコハマトリエナーレ-2017- 島と星座とガラパゴス」に横浜美術館美術情報センターと共同で参加しました。本学図書館が所蔵する貴重な古典籍を活用し、「芸術 (fine art)」と「ドキュメンテーション (documentation)」とのコラボレーションから創造された展示テーマが「ひろがる源氏 つながる古地図」となりました。履修した学生は、資料調査、展示作成、入館者ガイドを体験しました。授業の成果は、全国の図書館関係者が集まる図書館総合展や本学で開催する国際教養学会でも発表しました。

国際交流活動では、恒例となった国際インターシップで北京大学と世新大学の学生を受け入れ、英語による合同の授業を開講しました。また、海外の先生をお招きした公開授業では、ハワイ大学コンピュータ情報科学部図書館情報学科に所属されている安里のり子先生による「図書館員と知的自由」、アンドリュー・ウェルトハイマー先生による「図書館と偽ニュース」の講義を頂きました。

皆さんが卒業後に歩む社会はグローバルな社会です。多様な価値観を尊重し、相互に協力し合うことの重要性を学ばれたことでしょう。本学科で積まれた豊富な経験を生かし、社会に貢献し世界で活躍できる人になってください。在学生、卒業生、そして教職員一同は、ドキュメンテーション学科が、さらに躍進していけるよう頑張っていきたいと思います。

ドキュメンテーション学科 主任 角田 裕之

角田裕之研究室

- 石原 夏実 指定管理者制度導入による公共図書館の状況調査と法人種別分析・考察
小田 佳歩 小説における図書館のイメージの分析、考察
今野 真歩 『星の王子さま』の、訳者による表現の比較・研究
清水 綾香 大学図書館 twitter アカウントの運用に関する調査と発信内容の分析
高木 星斗 鶴見大学図書館における利用されなくなった図書の調査分析
檀 千尋 鶴見大学図書館の学修支援サービス向上にむけての提案
藤田 翔生 三国志正史と演義の比較：演義の小説としての魅力についての考察
丸山 千佳 鶴見大学図書館における一度も借りられたことのない本と複数回借りられた本の比較と分析
山田 雅治 公共図書館の日本十進分類法を使用した蔵書構成と図書貸出割合の比較調査分析

河西由美子研究室

- 小里 一正 鶴見大学生の心に残った思い出の本と読書傾向に関する研究
櫻井 美穂 学習指導要領と学校図書館に関する研究
鈴木 彩乃 大学図書館におけるワークショップの実態に関する研究
多賀 智洋 子ども読書推進計画に関する研究
田中 優音 課題図書選定における災害の影響に関する研究
増田 理乃 ブックトークの効果に関する研究
松下 恵海 神奈川県内公立図書館における上映会に関する研究
森 柚衣 子育て世代の児童サービスの認識に関する研究
安野沙央里 公共図書館ヤングアダルト Web ページに関する研究

大矢一志研究室

- 山本 将典 公共図書館におけるマンガの受入状況とそのジャンルの調査

伊倉史人研究室

- 赤坂 京香 『源氏百人一首』に関する一考察 ―無名登場人物の通称について―
阿部 美貴 訓蒙図彙から派生した書物の研究
荒井 一彦 明治期イソップ物語の翻訳本について ―収録作品と教訓を中心に―
大平 良菜 アンデルセン童話と明治期英語教材について
笹口 瑤季 草双紙の題材の傾向について
景山 美澄 鶴見大学図書館蔵『源氏之目録』考
清水浩太郎 童話「桃太郎」の変容 ―江戸時代から明治時代にかけて―
鈴木 郁未 古活字版寛永行幸記の伝本研究
寺田 龍人 現代に生きる禅語
富樫あゆみ 戦前の詩吟集と教本について



久保木秀夫研究室

- アメリカ野球の歴史に関する文献の調査・研究 青木 颯
横浜における野球の歴史に関する研究 安徳 豪
近代警察の始まりに関する調査研究 池上 海渡
江戸時代における『伊勢物語』 版本の流布についての研究 石田 裕貴
消防・防災に関する近現代書物の調査研究 上原 平
鶴見大学図書館蔵『百人一首』 写本の調査・研究 田口 万裕
『源氏物語』「柏木」巻の本文異同に関する調査・研究 新里 美咲
白隠『荊叢毒藥』と『竹取物語』に関する研究 村田 尚輝
日本のプロ野球に関する文献の調査 藤田 勇希
鶴見大学図書館蔵『竹取物語』 写本に関する調査研究 森田 栞
鶴見大学図書館蔵『大和物語』 写本に関する調査研究 高橋 美鈴

田辺良則研究室

- php、MySQL を用いた会議室予約システムの作成 伊藤 健悟
データベースを用いた SNS 連携機能を持つ学内電子掲示板の試作 北村 竜吾
スランプの原因と脱出方法に関する調査研究 ―学生スポーツを中心に― 佐藤 圭恭
制約充足問題ソルバを利用した時間割作成の試み 下村 一樹
野球の詳細試合情報からデータを抽出するツールの開発 須田 吉紀
和文モース符号の最適化の試み 内川 直也
インターネット詐欺に関する調査研究 岸 政也

元本章博研究室

- 公共図書館の視覚障害者向け資料および機器の設置状況の調査 秋本 悠汰
公立図書館の障害者向け資料に関する OPAC 検索機能の現状調査 荒木 孝介
カラーユニバーサルデザインの理解を目指した授業の実践と評価 飯島 教恵
関東地方の公立図書館が提供する交通アクセスに関する情報の現状調査 高木 涼平
鏡像関係の理解に向けた点字器を用いる実習と点字表示方法の評価 星野ゆう子
特定行為を模倣した教材開発と授業実践を踏まえた提案 阿部ひかる

2017 年度 卒業論文題目

📌 角田裕之研究室

角田研究室では、主に図書館学に関することや自分の興味があるものやことに対して研究していくことを目的にして活動しています。また、卒業論文の内容決めから調査方法、執筆方法などどんな些細なことに対しても角田先生が親身になって相談に乗ってくれます。そのため、不安を抱くことなく卒業論文活動に取り組むことができると思います。授業では一人ひとりの研究に関する意見交換をすることで自分の研究の視野を広げたり、内容を深めていくことが主な内容です。しかし、時には就職活動での情報交換をしたり、世間話で大いに盛り上がりたりするので、メンバー同士の仲も深まり、和やかな楽しい空間となっています。そんな中で自分の調査したいこと研究したい方には角田ゼミに向いていると思います。 [石原夏実]



📖 久保木秀夫研究室

1年間という時間はあまりにも短いと感じました。卒業論文をつくる日々は多忙であり、毎日がせわしなく過ぎていきました。振り返れば、調査と発表を繰り返し、知識を蓄えることの連続だったと思います。また、いよいよ卒業論文を書く段階になると、自身の主張が客観的に妥当であるか、四苦八苦することになり、世に出回る論文の完成度の高さを痛感しました。「時間がいくらあっても足りない」という先生の教を身を以て経験するような、実に濃密な1年間でした。制作した卒業論文にやり残しがないと言えば、嘘になります。しかし、私が制作した卒業論文は、私の4年間の集大成であり、今の私に出来る全力であったと信じています。 [石田裕貴]

2017 年度 研究室紹介

🔍 河西由美子研究室

河西研究室では図書館学に関わる論文を執筆する学生が多く集まります。大学4年間で学んだ中からそれぞれが興味関心のあるテーマで取り組んでいます。テーマを決めるまでが重要です。テーマ決定前に先生と面談し、自分の考えを伝えて、論文の形にできるかなどのアドバイスを頂けます。テーマをしっかりと決定させるので、執筆は基本的に自分のペースで進めることができます。その為、進捗状況をしっかりと把握し、自分から率先して動くことが大切です。卒業論文は自己責任です。本当に自分がやりたい事を見極められるように早い段階から気になる事をチェックしておくのも良いと思います。卒業論文を書く仲間とお互いに切磋琢磨し、取り組みましょう！ [森柚衣]





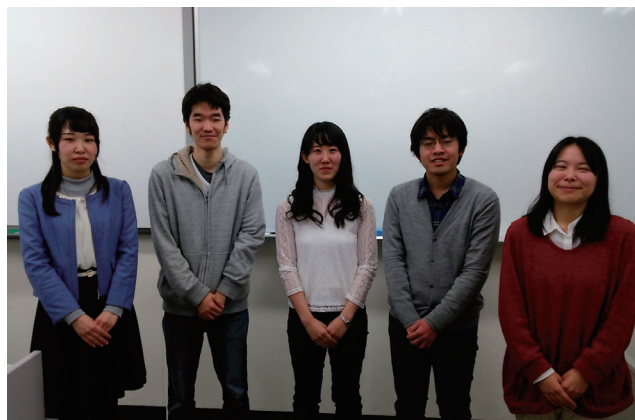
📱 田辺良則研究室

田辺研究室では、プログラミングを中心にそれぞれが興味を持ったことを研究できます。ゼミの時間は1週間分の進捗発表を全員が行ないますが、自分の発表に対してゼミ生と先生から質問や意見をもらうことができるので、次週までの課題が明らかになります。また、個別相談もしていただけたので悩む時間を最小限に抑えることができました。約1年間の研究室の経験から、人の意見を取り入れる柔軟性、人前で話す力、問題解決能力が向上したと思います。[須田吉紀]

📶 元本章博研究室

元木研究室では、図書館における障害者を対象としたサービスや、授業で使用する教材の開発等、様々な研究テーマを扱っています。配属された学生は、全員が科学者(のたまご)の1人として扱われます。そのため、卒業論文であっても事実に基づいて考察を深め、結論を出すことが求められます。先生の指導を受け、さらに学生同士も助け合いながら研究を進めていきます。そうして得られた成果を学外の学会で発表することもあります。

[星野ゆう子]



🍷 大矢一志研究室

卒業論文に取り組んだ反省は、スケジュールをきちんと組み立てるべきだったことです。早く取り組みを始めるべきでした。そして、先を見据えて何を書くべきか決めておくべきでした。また、余裕を持ってやらないと良いものはできないことを学びました。このことは、これから先の人生でも大切なことになると思います。

[山本将典]

📖 伊倉史人研究室

伊倉研究室は、貴重な古典籍に触れながら、書誌学の研究を進めることができます。先生はいつもの確なアドバイスや時には厳しい指摘をしてくれます。夏には、中間報告会を開いた他、鎌倉散歩で歴史の知識を深めたり、飲み会をしたり、楽しいゼミでした。ゼミ旅行は、日帰りでも行った方が良いので、企画や連絡はきちんとしましょう。伊倉ゼミは“報・連・相”が重要です。そして「なんか〜」は禁句です。カウントされてしまうので気をつけましょう。

[大平良菜]



国際交流

2017 年の国際交流を振り返ります。

まず、2 月 22 日(水)から 3 月 2 日(木)までの 9 日間、特別演習Ⅱ(台湾での図書館研修)が行われ、ドキュメンテーション学科の 2・3 年生 6 名と、寄付講座(リカレント教育)受講者の 1 名が参加しました。姉妹校である台湾・世新大学の協力で、世新大学図書館をはじめ、故宮博物院、国立台湾図書館等を見学しました。世新大学の学生とは、チームを組んでビデオ作成に取り組んだほか、休日は一緒に観光するなど、大いに交流を深めました。なお、2017 年度は特別実習Ⅱはお休みで、次回実施は 2018 年度です。

恒例の鶴見大学国際インターンシップは、6 月 30 日(金)から 7 月 10 日(月)まで行われました。世新大学から 7 名、中国・北京大学から 8 名の合わせて 15 名が鶴見大学で見学・実習を行いました。今回は、当学科学生のボランティアグループが、休日にインターン生達を案内する日を設けました。お互いに顔も良くわからない時でしたが、すぐ打ち解けてどのグループも盛り上がっていました。なお、今回も図書館の方々や、国際交流センターの皆様に、引率・実習指導でご協力をいただきました。ありがとうございました。

海外研究者招聘では、トースカロライナ大学チャペルヒル校図書館情報学科長のゲーリー・マッキオニーニ先生をお招きして、1 月 21 日に「学習プロセスとしての情報探索」と題して講演をしていただきました。主に当学科の 2 年生が聴講しました。また、ハワイ大学コンピュータ情報科学部図書館情報学科から、安里のリ子先生とアンドリュー・ウェルトハイマー先生を、11 月 20 日から 22 日の日程でお招きしました。安里先生には「図書館と知的自由」というタイトルで 1 年生に、ウェルトハイマー先生には「図書館と偽情報」というタイトルで 3 年生に、それぞれ授業をしていただきました。授業後の交流会では、当学科の学生もいろいろな話題で楽しんでいました。

特別実習Ⅱ(台湾・世新大学での図書館研修)

新井 春奈

私が参加した理由は、単純に海外の図書館を訪れてみたかったからでした。初めての海外で自分の英語が通用するのかとても不安でしたが、世新大学の学生さんたちが温かく迎えてくれたおかげで、とても楽しく過ごすことができました。台湾の図書館を見学してみて、日本の図書館にも、もっと工夫できる点や改善できる問題点があることを改めて考えさせられました。勉強だけでなく自由時間も充実していました。学生さんたちにいろんな場所やお店、おいしい台湾料理をたくさん教えてもらえました。図書館を見学しただけでなく、学生同士でのコミュニケーションを深めたり台湾の文化にも触れることができ有意義な実習でした。

御守 菜摘

私の目的は、海外に行くことと海外の図書館を見学することでした。9 日間の実習の期間で、世新大学・台湾大学の図書館、国家図書館と 2 つの公共図書館を見学することができました。それぞれに独特の特徴があり、利用者が自分で行う貸出機や返却機、電子書籍の貸出システムなど多くの技術を図書館に取り入れている図書館がありました。実習を通して、図書館内の空間づくりに深く興味を持ちました。New Taipei City Library では南国にような空間で本を読めたり、台北市立図書館北投分館では一つのフロアが児童室になっていて机から椅子、本棚などが子供サイズだったり、子供が長く居ることができるような空間でした。

大下 由真

私が参加したきっかけは、先輩の体験談を聞いたことです。予約した本が機械で自分の手元に運ばれる図書館があると聞き衝撃を受け、実際に自分の目で見てみたいと思い参加しました。英語があまり得意ではないので不安でしたが、学生たちが積極的に話しかけてくれ、身振り手振りや、翻訳を駆使して、とても楽しい時間を過ごすことができました。また、3 日間の自由時間があったのですが、私達の行きたいところに毎日連れて行ってもらい、交流を深めることもできました。図書館の見学では、先ほどの機械を実際に見ることができ、さらに一年生の時に学んだ伊東豊雄さん設計の図書館に行くこともでき、とても有意義な時間を過ごすことができました。

国際インターンシップ



国際インターンシップ：歓迎会にて



国際インターンシップ：總持寺にて精進料理の体験

苗 美娟 (Miao Meijuan)：北京大学

The people in Tsurumi University are so good that I'm so grateful to them. I remembered that one night on our way to the Guest house, we got lost. There was a good boy who showed us the right way and accompanied us for a long way until we could find our house clearly. I really like Tsurumi very much.

— 宿舎に戻る途中で道に迷ってしまったとき、男子学生が、長い道のりなのに近くまで道案内してくれたのです。鶴見がとても好きになりました。

唐苡晴 (Tang Yi Ching)：世新大学

On our weekend, we had some days played with Tsurumi's students. They would ask where do we want to go? And almost spent all their time, hang out and play with us, although their final exams were coming. I'm really appreciated that and have a wonderful precious time in this trip. If I have chance to visit Japan again, I would come and find my friends in Tsurumi and create more wonderful memories in Japan.

— 週末、鶴見の学生と遊びました。私たちの行きたいところに（試験が近かったのに）一日つきあってくれたのです。また鶴見でできた友達とすばらしい時間を過ごしたいです。



特別実習Ⅱ：歓迎会にて



特別実習Ⅱ：ビデオ作成中



特別実習Ⅱ：新北市中央図書館にて



特別実習Ⅱ：台湾大学の図書館にて

授業紹介

2017 ヨコハマトリエンナーレ：ヨコハマプログラム

鶴見大学 × 横浜美術館美術情報センター 「ひろがる源氏 つながる古地図」

昨年8月4日～11月5日に開催された「2017 ヨコハマトリエンナーレ」の関連企画として、美術専門図書室である横浜美術館美術情報センターと本学科とが連携して、「ひろがる源氏 つながる古地図」展を開催しました。

前期「ひろがる源氏」展（8月4日～9月13日・後期「つながる古地図」展は9月15日～11月5日）のための下調べ、解説の執筆、そして期間中の口頭での解説を行ったのは、「特別実習Ⅰ」の履修生8名です。準備段階では、横浜美術館美術情報センターという大舞台で、多くの来場者に、展示品の特徴や価値、成立の時代及び文化的背景等をどのように説明すれば理解していただけるか大いに頭を悩ませました。本番での展示解説では、最初は戸惑うこともあったものの、日を追う毎に、対応の仕方、話し方も上手になっていき、達成感を得られたようです。

後期の授業では、今回の成果を1枚のポスターセッションにまとめ、図書館総合展（11月7日～9日）で展示発表も行いました。

学生の解説をお聞きいただいた来場者の皆様、ご協力いただいた横浜美術館美術情報センターの皆様、そして鶴見大学図書館のスタッフの方々には、深く感謝申し上げます。



展示品の下調べ中



横浜美術館にて

担当した「源氏物語双六」については、見学される方に積極的に声をかけて、自分が作った模型（レプリカ）も使い、遊び方を説明すべきだったと反省しています。自分は黙って展示物を見たいタイプだからと遠慮せず、観賞側の立場に立って、見慣れないものを見た時の「これはなんだろう」という好奇心に応える姿勢をもっと取るべきでした。反対にうまくできた点は、展示物を説明するときの口調です。ゆっくり説明しながら一つ一つ手で示して丁寧に行動するように気を付け、観賞される方に失礼のない態度がとれたと思っています。[西野比奈子]

宮城県から来場された方が印象に残っています。神奈川県には観光のために来ていたが、インターネットで鶴見大学の『源氏物語』に関する展示が開催中だと知り、横浜美術館を訪れたと聞きました。その方には、全ての展示品の解説を行いました。『源氏物語』に詳しい方で、私たちの解説を一つずつ楽しそうに聞いてくださいました。大勢の来場者に解説をしたが、わざわざ私たちの展示スペースに来ていただいたことがとても嬉しかった。[井川栄理子]

解説のため、声をかけた来場者の中には、『源氏物語』やくずし字などにとても詳しい方もいらっやあって、逆に私の方が色々な話をお伺いするという機会もあった。解説者としては恥ずかしいことなのかもしれないが、その方も楽しそうに展示を見ながらお話をされていて、学生生活では関わることがないような年代の方などとも交流を図ることができ、貴重な体験をすることができたと思う。

[愛知康美]

学生の声

見学会

毎年度恒例の1年生を中心とした見学会、今回は、4月に横浜美術館と三溪園、2月に東京国立博物館に赴きました。ちなみに本学文学部は、東京国立博物館のキャンパスメンバーズに加入していますので、学生の皆さんはいつでも、総合文化展（常設展示）を無料で観覧することができます。ぜひどんどん活用して下さい。

【横浜美術館】

■ 写真かと思うような絵があれば、絵かと思うような写真もあり、不思議に思った。今にも動きそうな魚や鳥、植物など、絵の中で生きているのかと感じさせられた。色づかいのせいか、怖い雰囲気を感じる絵が多数あった。文化財学科や書誌学コースの方々はこのものを扱うんだろうな、と勉強になった。図書室には美術関係のものが豊富に置いてあった。私の感性が足りず作品から何かを感じることは難しかったが、なぜ作品を作ろうと思ったのか、その思いを知りたいと思った。

[境果苗]

■ 木版であんなにも色鮮やかな絵があるのかと衝撃的だった。木版に興味があった。他にも様々な作品があり、観ていて楽しかった。

[加藤鞠菜]

【三溪園】

■ 古くからある日本茶屋や庭園、植物、動物などたくさんの自然を感じることができました。園内は広く、山道のようになっていて、ところどころに普段見かけることの少ない花や木があったり、鴨や亀、鷺、猫など数多くの動物が姿を現してくれました。現代は環境破壊も進み、このように美しい場所が失われつつありますが、景観を無くさないよう私にできることをしていきたいです。

[下山莉奈]



■ 日本庭園の美しい情景を自分のペースでゆっくりと見る事ができたのでとてもよかったと思います。お茶屋さんに立ち寄ってお団子を食べたりしたこともとても楽しかったです。また、鳥や植物などの自然がたくさんあって、心が洗われました。電線がなくて雰囲気を壊さないようにしているところにもびっくりしました。

[秋野楓]

【東京国立博物館】

■ 今回初めて東京国立博物館を見学しました。特に目を引いたのが、万葉集やお経の多さでした。ぱっと見では同じように見えても、よく見ると、紙質や巻物の柄に違いがあることを知り、面白いなと思いました。ほかにも刀だったり、ガラス玉のきれいな物も見ることができて、良かったと思います。

[小澤由佳]

■ 何人か聞いたことのある名前があったので、「あ、この人習った！」と発見した時楽しかったです。かなり昔のものなので、よくこの時代まで残っていてくれたなと思いました。昔の人が作ったものを展示しているので、今の時代の人が作ったものが、いつか同じように展示されているのではと考えると、すごいことだと思います。

[濱園夕奈]

■ 刀剣や屏風絵など普段目にする機会がないものだったのでとても興奮した。特に刀の刀紋に一つひとつ特徴があり、輝いていてすばらしいと思った。また、つばも様々な模様があり、なぜそんな細かいところまでに気にするのか興味を持った。次はゆっくりと下調べをしてから巡ってみたい。

[土田瑛]

教育実習を終えて

櫻井 美穂

私は、6月5日からの3週間、神奈川県立霧が丘高等学校で教育実習を行ってきました。実習期間の1週目は、授業を見学中心に過ごし、2週目からはインターネットで調べて資料を埋めていく授業を行いました。

生徒へ新しい知識を理解させるのが教師の役割です。しかし、私は「教科書や自作の資料を読んでいるだけ」の授業をしてしまい、指導の先生から「生徒を巻き込んでみては？」とご助言を頂きました。

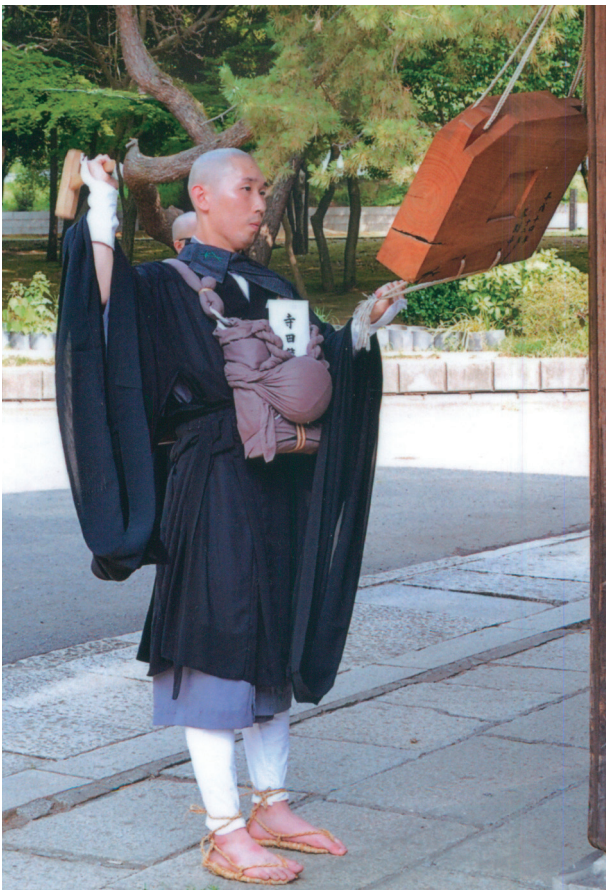
研究授業では、生徒に声をかけることを心がけ、作業を終えた生徒に、考えを発表してもらいました。授業後、指導の先生から「生徒を巻き込んで授業ができて、生徒も静かに聞いてくれていたね」とご講評をいただきました。

実習を終えて多くの反省点が残りましたが、貴重な体験ができました。実習校の皆様に、厚く御礼申し上げます。



永平寺修行体験記 特別安居

寺田 龍人



平成29年2月28日から3月31日にかけて、福井県にある曹洞宗の大本山永平寺で修行をさせていただきました。

永平寺の一日は早く、朝4時雲水が大きな鈴を鳴らし伽藍の中を走り抜ける音で目を覚まします。坐禅に始まり、朝・昼・夕のお勤め・読経・食事・作務・講義・坐禅と永平寺での一日の流れは細かく決まっていました。

印象に残っていることは、修行をはじめるにあたって、本当にこの永平寺での修行生活に挑む覚悟があるかと、問われたことです。雪の降る中、二時間近くたたされ、手足の感覚がなくなりそうになりましたが、やっとの思いで上山することができました。

一カ月の短い期間でしたが永平寺で修行できたことをとても誇りに思います。

検索技術者検定 3 級に合格

桑原 香奈

今回私が取得した検索技術者検定 3 級では、情報検索やリテラシー能力の基礎が主な問題でした。なかでも「データベースと情報サービスの知識」や「情報検索」については 1、2 年次に学んでいたものが多く、あまり難しく感じませんでした。しかし、法律問題が苦手であったため、著作権に関する問題は重点的に勉強しました。他にも身につけておけば役立つ知識ばかりだったので、これを基礎に今後 2 級にも挑戦したいと思います。

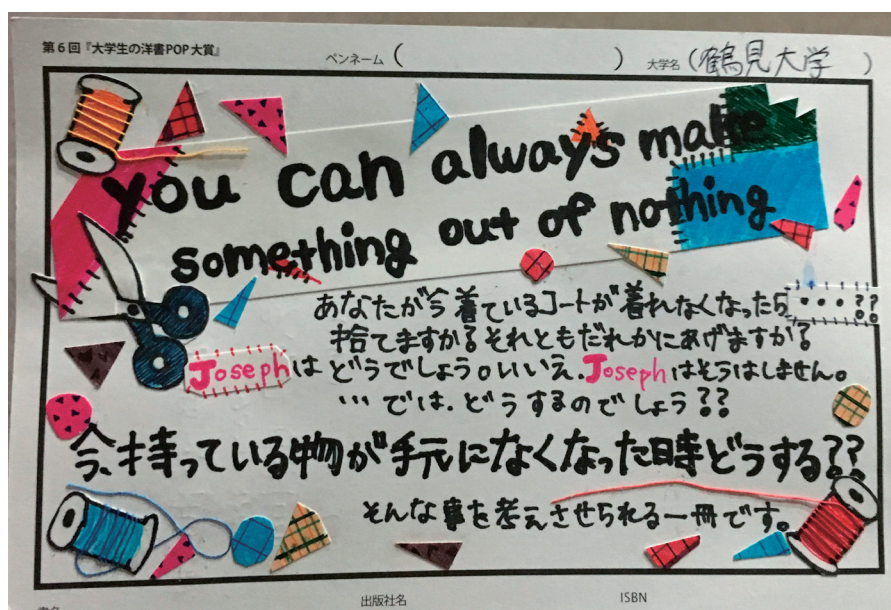
主催：全国大学生生活協同組合連合会 協賛：丸善雄松堂株式会社・株式会社アルク

「第 6 回 大学生の洋書 POP 大賞」優秀 POP 受賞！

阿部 ひかる

きっかけは、ドキュメント処理各論Ⅱで行った図書館での企画展示でした。たくさんの POP を作成し、楽しさを感じました。その後、図書館でも POP 講習会が行われました。POP 王と呼ばれる三省堂書店の内田剛さんから POP 作成のいろはを教えてくださいました。1 冊の本に対する強い想いを、1 枚の紙にして伝え、手に取って貰うという目的を教わりました。私が作成した POP は目を惹くことばかりを意識し、想いを伝える意識が足りませんでした。

もう一度 POP を作りたい！と思っていた時に、洋書 POP 大賞について知りました。講習会で教えて貰ったことを意識して、本の内容から、実際のミシン糸やハサミなどでパーツを作成し、立体化させ貼り付けました。このようにして作成した POP が賞に選ばれたこと、講義で取り組んだ内容を発展させ、学外で評価されたことを、とても嬉しく感じています。



学生の活動報告

「情報バリアフリー推進会」活動紹介

情報バリアフリー推進会は、本学コンピュータ部（旧・同好会）時代に実施された「鶴見大学バリアフリーマップ作成」の活動から分派しました。学内外、障害の有無を問わず、情報アクセスの支援（情報保障）を可能な限り実現する活動をする団体です。部員は12名で、ドキュメンテーション学科の人が多くですが、日本文学科の人も2名います。略称は「情バリ」です。今までに実施してきた活動は以下のようなものがあります。

- ・弱視の人にも見やすくするために、鶴見大学図書館の書架表示を白黒反転する作業
- ・視覚障害に関して理解を広く促すことを目的とした鶴見大学図書館での企画展開催
- ・単独歩行をする視覚障害のある方のために、文字だけで道案内を作って、ネットで公開
- ・移動が困難な方の為に、總持寺や鶴見大学のバリアフリーマップを作成
[サイトワールド、視覚障害リハビリテーション研究発表大会]
- ・聴覚障害のある方や聞こえづらい方へ登壇者の声を届ける為に、発話内容をパソコンで文字化する作業の実施
[入学式、新入生オリエンテーション、紫雲祭開会式、成道会、卒業式、情報メディア学会研究大会、開発教育全国研究集会等]
- ・聴覚障害のある方との逐次コミュニケーション手段の一つとして、手話のトレーニング実施

「障害がある方」と限定せずに、「情報にアクセスすることに困難がある方」に対して、情報を保障する活動をしています。これらは、司書の仕事でもありませんか？



平成28年度入学式でパソコンテイクするメンバー

コース選択

より良いサービスとは何か

中村 友香

私は、3年生になったら図書館学コースに進もうと考えている。入学前は資格の取得をすることだけを考えていたが、図書館学というものに興味を持った。初めは本の貸し出し・返却が主な仕事だと思っていたが、授業を受けていく間に他にも沢山の仕事があると知り、更に知りたいと思った。

情報サービス概論では、図書館内で行われているレファレンスサービスについて学んだ。授業の中で、利用者役と司書役に分かれ、どんな目的で図書館に来たのか、どのような本が欲しいのか、実際に聞き取りを行ったり、特集されている映像を視たりして、サービスを行う上での手順や、注意しなければいけない点を知ることができた。

これからは、図書館の内と外で行われているサービスについて、更に詳しく知りたいと思っている。読み聞かせや子どもへの選書支援、「読書のまち・かわさき」、などといった読書活動推進運動など、実際に図書館へ行って行われているサービスの違いを知りたい。

図書館学コースに進んだら、よりよいサービスとは何なのか、自分なりの考えを持って学んでいきたい。

幅広い知識を身に付けたい

佐藤 優梨子

私は、入学当初から図書館学と情報学のどちらも学びたいと考えていたため、3年になり、どちらのコースに進むか悩んでいます。

1年次では、必修の授業が多くありましたが、2年次では自分で選択できる授業が増えたため、司書資格取得に向けた授業と、プログラミング等の情報系の授業を履修しました。図書館学と情報学は全く異なる分野だと思っていましたが、図書館学の授業の中で、「今は、図書館サービスが多様化しており、司書資格を持っているだけでなく、情報学など幅広い知識が要求されている」という話を聞き、どちらの分野も繋がりのあるものなのだと感じました。

4月には、どちらか一方のコースを選択しなければなりません、幅広く知識を身に付けたいという姿勢は保ったまま、今後も学ぶことができたらと思います。

心躍る古典籍との出会い

古川 薫

私は、3年次でのコース選択で書誌学を選ぼうとしています。書誌学を選択したきっかけは、入学前のオープンキャンパスでした。ちょうど古典籍を取り扱っていた教室があり、ちょっとした興味本位でのぞいたのですが、個人的には大きな収穫となりました。展示してあった古典籍に実際に触れることができ、更にその時代背景も詳細に教えてもらい、心躍る時間でした。この出来事から鶴見大学で古典籍について学びたいと強く望むようになりました。

2年次で受けられる書誌学の授業でも写本や版本についてより深く知ることができ、ますます興味関心が大きくなっていました。

3年次には書誌学コースを選択し、更に古典籍について学び、ゆくゆくは卒業論文の題材としても扱いたいです。

卒業生から

念願の司書になって

横浜市港南図書館 佐々木文子

大学に入った当時、私は図書館サービスについて貸出と返却以外はほとんど何も知らない状態でした。そのため、まず図書館のことについて学ぶこと自体が、新しいことの連続でとても楽しく、面白かったのを覚えています。

そして、当時お世話になっていた先生からの薦めもあり、大学2年生の夏、図書館のアルバイトに応募しました。利用する側ではなく、提供する側に回ったことは初めてでしたが、貸出、返却などの基本的なカウンター業務を身に着けることができました。また、より深く図書館に関わりたいと思い、鶴見図書館での読み聞かせのボランティアにも参加しました。

大学3年生まではひたすら、試験とレポート、そしてアルバイトに追われていたため、実質私が就職活動を始めたのは大学3年生の終わりからです。公務員試験のために、大学に入ってから縁のなかった理系分野を必死に学びつつ、4年間の集大成である卒業論文に取り組むことは想像以上に苦しく、何故もっと早くから勉強してこなかったという後悔を何度も抱きました。それでも公立図書館に狙いを定めて勉強、そしてキャリア支援課の面接レッスンを積み重ねた結果、何とか合格を勝ち取ることが出来ました。

今は、念願だった司書になったものの、試験に受かった瞬間に一人前の司書になれるわけではなく、大学時代と同様日々勉強と経験を積み重ねる毎日です。苦手としていた分類記号の知識が、レファレンスサービスの際、知らない分野の本を案内するのに役に立ったり、カウンターでの利用者とのやり取りも何とかアルバイトでの経験で補えたりと大学4年間を通じて学んできたことは全て司書となった今でも変わらず息づいています。

図書館は本と人と向き合う場である、と大学時代よく先生方に言われました。今、まさに実感していることですが、図書館では本以上に人と向き合います。司書を志している皆さんには是非「本が好きだから」だけでなく、利用者の方に何かを提供したいといった思いを抱いて頂けたらと思います。



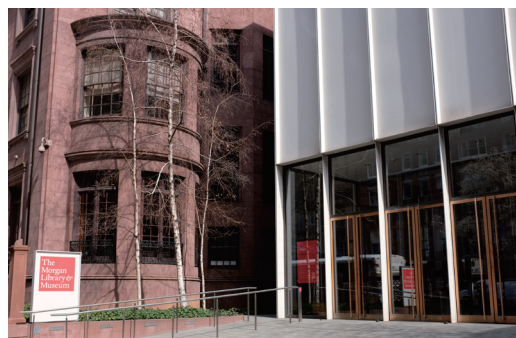
学年	月	準備・説明会・試験
3年	4月	採用情報収集開始（ウェブなど）
	11月	本格的な情報収集開始（指導教員や公立図書館員との面談）
	1月	ウェブエントリー（説明会登録）
	2月	神奈川県採用試験説明会・横浜市採用試験説明会
	3月	東京都採用試験説明会
4年	4月	筆記試験（一般・専門）・小論文・面接試験の対策を始める
	5月	調布市採用試験説明会
	6月	神奈川県採用試験
	7月	調布市採用試験
	9月	東京都採用試験・横浜市採用試験

No.14

【モーガン図書博物館〔ニューヨーク、アメリカ合衆国〕】

The Morgan Library and Museum, New York, USA

エンパイアステートビルからおおよそ3ブロック離れたところに、銀行家モーガンが作った図書博物館がある。この私設図書博物館は、近代的なガラスを多用した建物にリニューアルされ、天井を高くし外光を取り入れた中央ロビーは中庭のようで、開放感に満ちている。この建物には、カフェ、レストラン、ショップの他、クラシックコンサート仕様のホールが併設され、図書館というよりは、まるでサロンのような場所になっている。実際、図書館としての機能は専門家向けのみで、一般人はこの図書博物館が持つコレクションの展示や食事を楽しむために訪れている。



モーガン図書博物館



旧図書室

展示室は大きく2つに別れ、ひとつは企画展向け、もうひとつは旧図書室を再現した常設展になっている。訪れたとき、企画展ではワグナーの自筆譜が展示されていた。几帳面さが記譜に現れていて、彼の楽曲を思いながら楽しむことができた。楽譜が読めなくとも、楽曲を思い出せなくとも、記譜が語る音の雰囲気や、実際の音で確認できるよう、オペラの一場面がビデオ上映されていた。

もう一つの展示室にある旧図書室では、1906年当時の「書庫感」が楽しめるようになっている。そしてここには、この図書館の目玉であるゲーテンベルクの聖書が展示されている。嬉しいことに写真撮影が可能であった。

ゲーテンベルク聖書は、慶應義塾大学所蔵のものも含めて、これまでも何冊か眺めてきたが、時間も人も気にせずじっと眺めることができたのは初めてのことである。ゲーテンベルク聖書は、残存率が高いことでも知られているが、あらためて眺めると、やはりよくできている。文字の形だとか、装飾とか、そういった細かな点も重要なものかもしれないが、とにかく存在感がとても美しい。名前による偽薬効果もあるのだろうか。

展示室はそこそこの広さがあるのだが、展示品は多くない。美術館の展示の仕方になっている。入場料は少し割高に感じるかもしれないが、ニューヨークという忙しい街のなかで、人からも喧噪からも逃れる空間が書籍と共にあるサロンと考えれば、高額でもないだろう。

(大矢一志)



ゲーテンベルク 42行聖書

アクセス：エンパイアステートビルから+2ストリート、-1アベニュー歩いたところ。

開館時間：火 - 木曜 10:30-17:00 金曜 10:30-21:00 土曜 10:00-18:00 日曜 11:00-18:00 月曜と特定祭日は休館

アドレス：255 Madison Avenue, New York, NY, USA <http://www.themorgan.org/>

学科・学会活動報告

2017 年 4 月～2018 年 3 月

■ 4 月 3 日・4 日 新入生交流会・ノート PC 貸与

交流会では、新入生に加えて、教職員も自己紹介も行いました。翌日は 4 年間の大学生生活で活用してもらうために、ノート PC を貸与しました。

■ 4 月 5 日 入学式

ドキュメンテーション学科 13 期生の皆さんが入学しました。入学式後、学科別に教室へ移動し、教職員が挨拶をしました。

■ 4 月 15 日 見学会（横浜美術館・三溪園）

地元である神奈川県を知ってもらう・見直してもらうために、横浜美術館および三溪園へ見学に行きました。

■ 5 月 15 日・29 日 パソコン補習

1 年生の前期必修授業「情報機器教育論」で実施しているタイピングテストで補習対象となった学生たちに、タイピングのコツを伝えました。

■ 6 月 30 日 国際インターンシップ生の受け入れ

台湾・世新大学と中国・北京大学から学部生・大学院生がインターンシップ生として来日しました。7 月 10 日までの間、数々の授業を受け、東京と神奈川の施設（図書館や研究施設等）を見学しました。

■ 7 月 14 日 大学院入試説明会

大学院文学研究科ドキュメンテーション専攻が平成 30 年 4 月に開設（予定）。進学希望者が加川順治文学研究科長と角田学科主任から大学院の説明を受けました。

■ 8 月 4 日～9 月 13 日

横浜美術館美術情報センターで展示と解説

横浜トリエンナーレにおいて、鶴見大学と横浜美術館美術情報センターが、「ひろがる源氏 つながる古地図」

を開催しました。特別実習Ⅰの授業として、図書館所蔵の貴重書の展示を行い、学生が解説も行いました。秋の図書館総合展（11 月 7 日～9 日）では、その成果をポスター発表しました。

■ 2 月 1 日 卒業論文口述試問

学生最後の集大成として 4 年生が卒業論文に取り組みました。そして、最後の試験として、自分の卒業論文について、指導教員との口述試問に臨みました。

■ 2 月 6 日 見学会（東京国立博物館）

国内外の貴重な美術品等コレクションをまとめて見ることが出来る東京国立博物館へ行って来ました。特別展「仁和寺と御室派のみほとけ ― 天平と真言密教の名宝 ―」が開催中で、そちらに足を延ばした人もいました。



■ 2 月 21 日 貸与ノート PC 返却

今まで 4 年間お世話になったノート PC を返却する手続きを 11 期生全員で行いました。

■ 3 月 14 日 卒業式

ドキュメンテーション学科 11 期生の皆さんが卒業しました。卒業式後、学科別に教室へ移動し、角田主任教授から一人ひとりに学位記が手渡されました。

※ 活動報告の詳細は学科ブログ（<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/>）でご覧になれます。

- ☐ 「ドキュメンテーション」第 2 4 号をお届けします。
- ☐ ドキュメンテーション学科 11 期生の卒業記念号です。卒業生の皆さん、おめでとうございます。
- ☐ 恒例の見学会では、「キャンパスメンバーズ」制度を利用して東京国立博物館に行きました。学科の皆さんには、今後も大いに活用していただけたらと思います。

ドキュメンテーション 第 2 4 号
平成 30（2018）年 3 月 14 日（水）
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3
☎ 045(581)1001 発行責任者：角田 裕之
学科ホームページ：<http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>